

2

九十九里浜の現状と課題

2. 九十九里浜の現状と課題

2.1 九十九里浜の概要

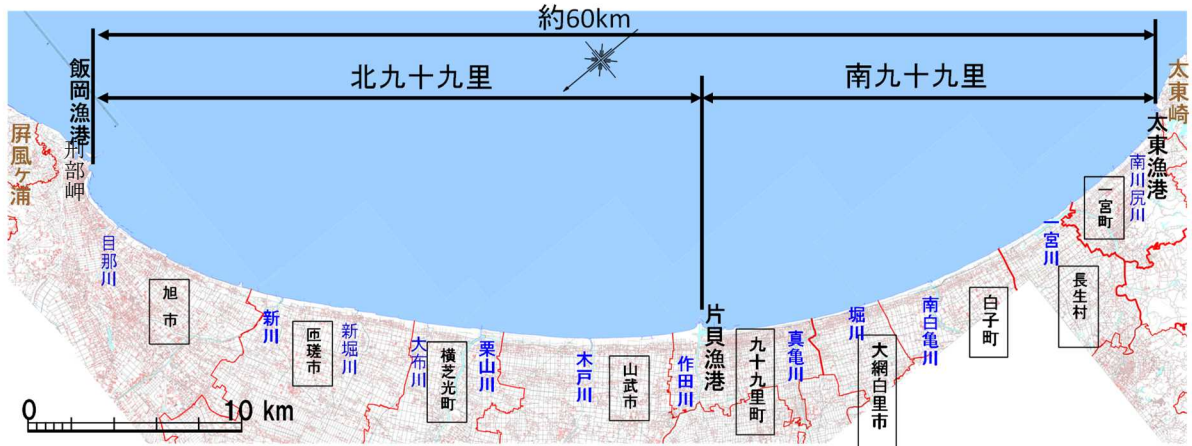


図-2.1 九十九里浜沿岸の市町村と流れ込む代表的河川

九十九里浜は、北は屏風ヶ浦の南端の刑部岬から、南は太東崎に至る延長約 60km の海岸線を有します。

2.2 海岸侵食の現状

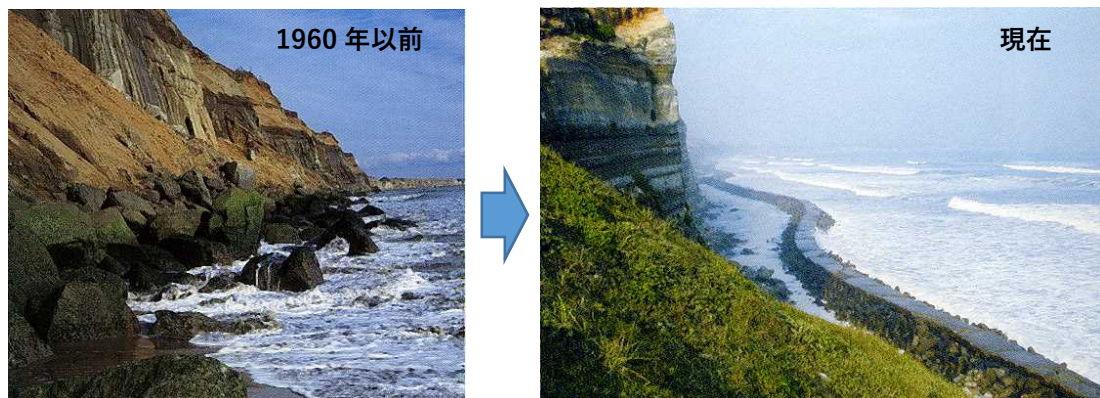


図-2.2 屏風ヶ浦の崖侵食防止工設置前後

屏風ヶ浦の崖侵食防止工設置前後を示します。この崖の侵食対策により 1970 年代から徐々に九十九里浜への砂の供給が減少しました。



図-2.3 飯岡漁港防波堤建設による沿岸漂砂の捕捉

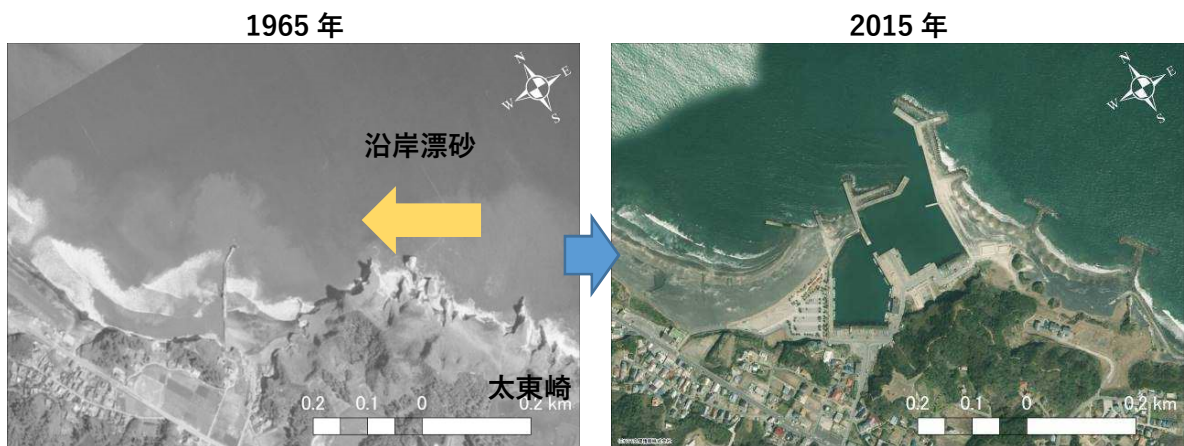


図-2.4 太東漁港防波堤建設による沿岸漂砂の捕捉

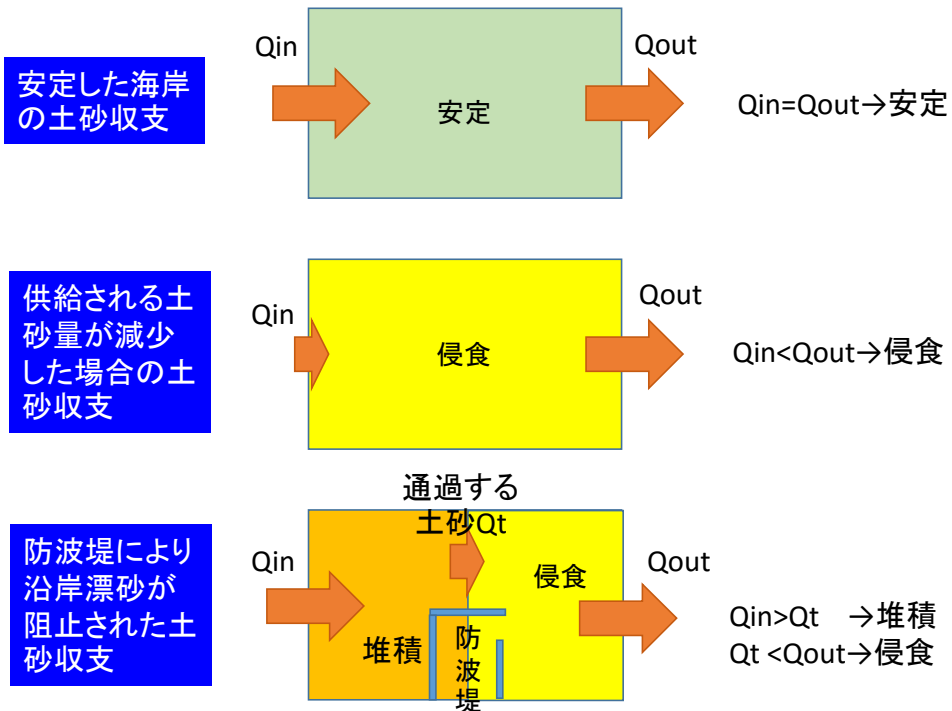


図-2.5 侵食を引き起こす土砂収支

漁港防波堤の建設により沿岸漂砂が捕捉され、供給される砂が減少しました。

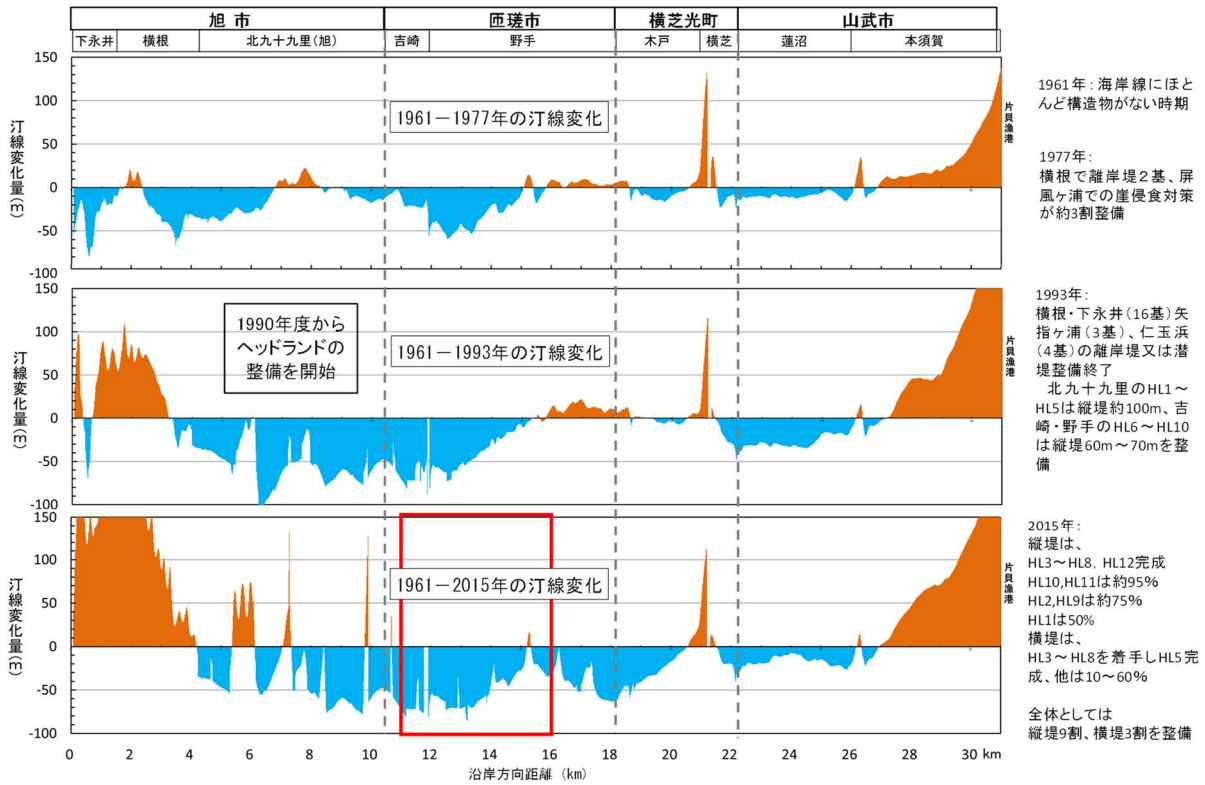


図-2.6 北九十九里の1961～2015年の汀線変化

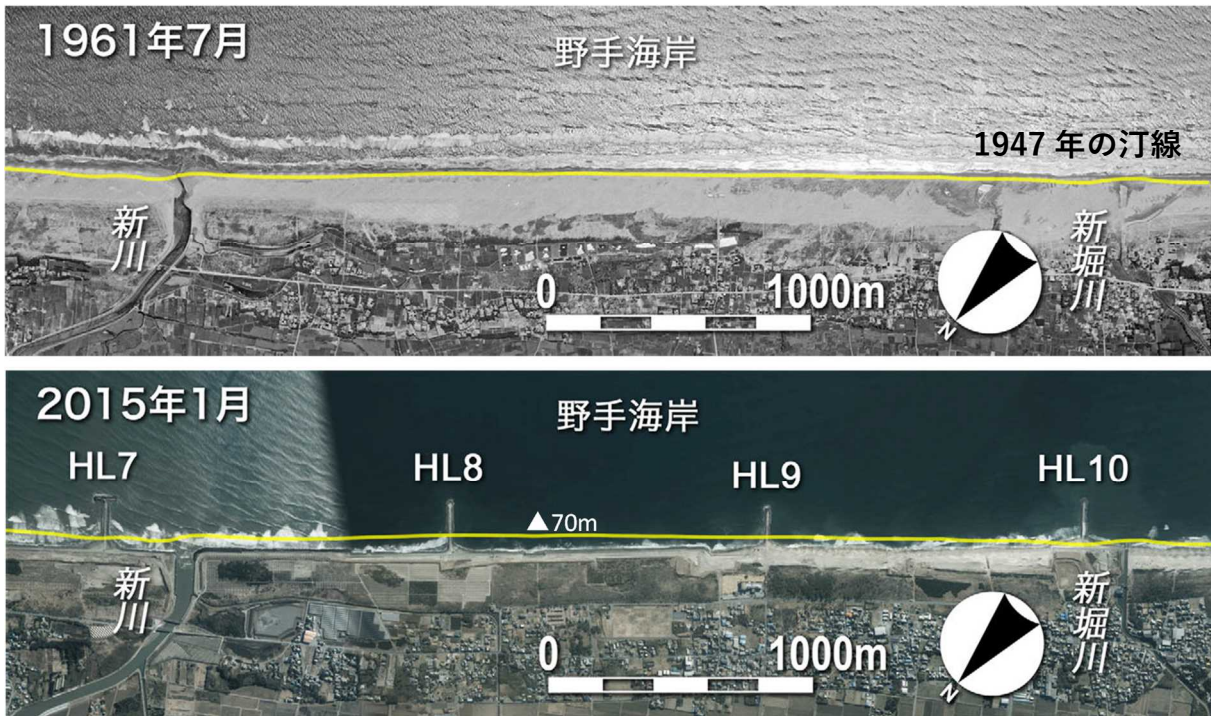


図-2.7 北九十九里 野手海岸の1961年と2015年の比較

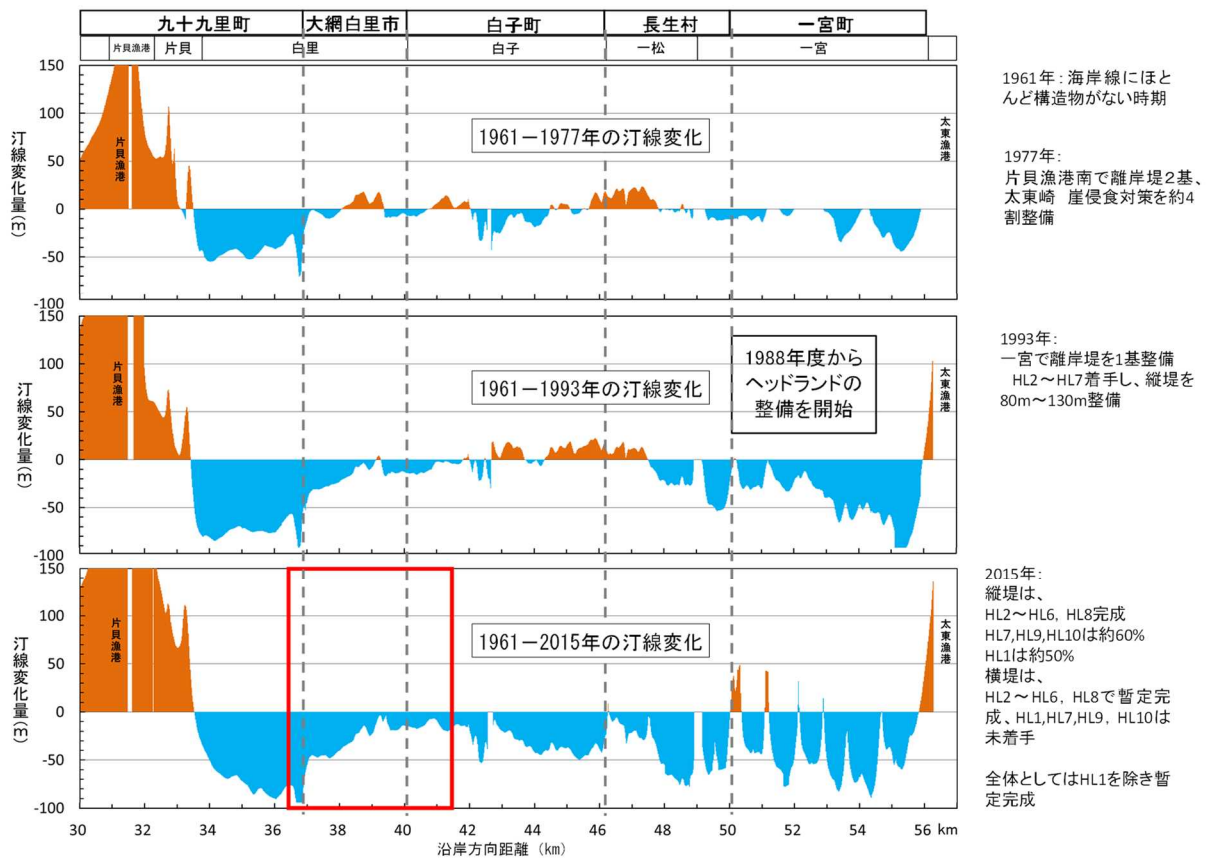


図-2.8 南九十九里の1961～2015年の汀線変化

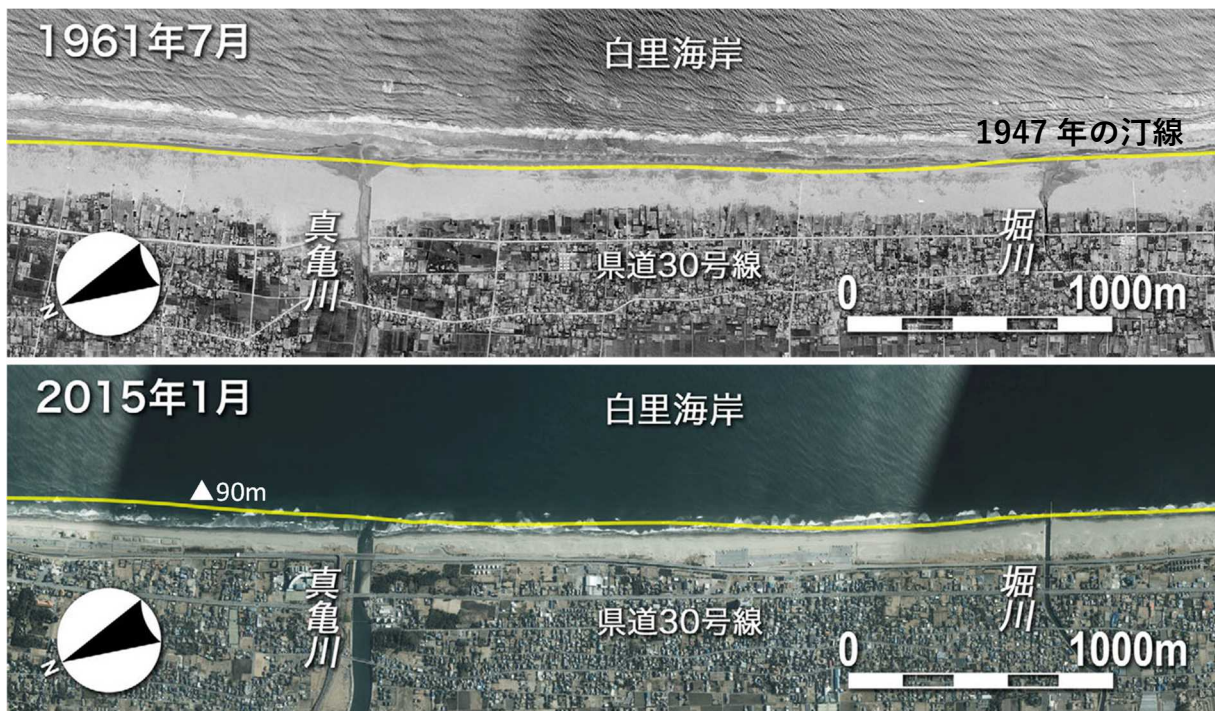


図-2.9 南九十九里 白里海岸の1961年と2015年の比較

吉崎海岸

1970年 小関与四郎撮影



出典) 続日本の海岸はいま
日本財団海洋船舶部国内事業課



2015年12月4日撮影



以前は砂浜があり海水浴場として賑わっていたが、現在は護岸が作られ、その前面には砂浜がほとんど見られない。

木戸海岸

1995年 小関与四郎撮影



出典) 消えた砂浜
財団法人ジップ・アンド・オーシャン財団海洋政策研究所編



2015年12月4日撮影



以前は広い砂浜があり、海浜植物も見られた。現在は護岸が作られ、その前面には砂浜がほとんど見られない。

図-2.10 北九十九里 吉崎海岸・木戸海岸の変化

一松海岸



一宮海岸



高さ 3.2m の浜崖が発生、村道は完全に流出している。

高さ 3.6m の浜崖は土塁（人工砂丘）の頂部に達する。浜崖の前面には砂浜が存在。

図-2.11 南九十九里 一松海岸・一宮海岸の変化